

# 広大から海外へ留学している若手からの便り

## 米国セントルイス・ワシントン大学留学便り

浅田 梨絵 医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻  
医学講座 分子細胞情報学 助教

私は現在、米国ワシントン大学セントルイス校医学部のUrano教授が主宰する研究室に留学しております。Urano教授は指定難病の一つであるWolfram症候群の発症メカニズム解明と治療法確立を目指して研究しておられる著名な先生です。現在、私はWolfram症候群の患者から樹立したiPS細胞や臨床検体、遺伝子改変細胞・マウスを使用して、細胞ストレス緩和の観点から治療法確立を目指した研究に従事しています。こちらでは各研究室の専門性が高く、また研究室間の繋がりが強いために大学内で共同研究が活発に行われております。そのため、異なる研究室の人とディスカッションをする機会も多く、研究の進め方や考え方の幅が大きく広がります。また大学には世界中の国から多くの若い研究者が留学しているため、多様な価値観に触れる事ができ、とても刺激的な毎日を送っています。このような留学の機会を与えて頂き貴重な経験をさせてくださっている今泉和則教授ならびに関係者の皆様方に、心より御礼申し上げます。



研究室のある Wohl Building

## 編集後記

BHS NEWS 第14号の発刊に際し、原稿執筆、編集にご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。今年も各地で自然災害が相次ぎ、平成30年7月豪雨では本学東広島キャンパスの建物も被害を受けました。多くの方々が被災地復興のため様々な形で支援されたことと思います。広島大学病院職員も延べ260人がDMAT、JMAT、災害支援ナースなどの支援活動に関わられたそうです。平成30年9月20日には「広島大学防災・減災研究センター」が設立されました。豪雨災害は今後も起こりえますが、可能な限り被害の発生・拡大を防ぎ、早期復旧・復興に繋がる研究が進むことを強く期待します。

大段研究科長の巻頭言にもありますように、2019年4月には現在の医歯薬保健学研究科から医系科学研究科として、組織再編されます。医学、歯学、薬学、保健学の4分野のさらなる融合とともに、横断的な研究・教育が求められています。このBHS Newsが霞キャンパスの様々な交流のきっかけになれば幸いです。2019年が皆様にとって素晴らしい年になりますことを祈念いたします。

2018年11月 広報委員 高橋 真

2018年（平成30年）11月発行

編集発行 広島大学大学院医歯薬保健学研究科広報委員会

住所 〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

電話 (082)257-5013（霞地区運営支援部総務グループ）

E-mail kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

URL <https://www.hiroshima-u.ac.jp/bhs>